

令和2年度  
第1回 明治記念大磯邸園有識者委員会  
議事要旨（案）

【日時】 令和2（2020）年8月21日（金） 10:00～12:30

【場所】 ビデオ会議

【出席委員】

委員：小野委員長、栗野委員、坂井委員、水沼委員

行政委員：栗原委員、野村委員、岡野委員、関矢委員（欠席のため鈴木氏代理出席）

【会議の概要】

1. 本年度の委員会の進め方について

委員）10月に予定されている第2回委員会では、旧滄浪閣の庭園設計（案）について（報告）となっており、スケジュールがタイトである。本委員会の役割は、何かを決定するのではなく、設計に対して助言等を行うことにあるが、次回の委員会前に設計案について確認したい。また、新築エントランス施設の設計のスケジュールと、庭園設計のスケジュールはどのようになっているのか教えてほしい。

事務局）旧滄浪閣の庭園部分は来年度公開予定であり、今年度内に工事発注を予定していることから、次回の委員会で確定したい。委員会の前に適宜、事前にご相談させていただく。なお、新築エントランス施設は、今年度末に基本設計を取りまとめる予定であり、国道1号歩道に面するエントランス空間の設計は、第3回の委員会で報告できるようにしたい。

2. 議事

（1）明治記念大磯邸園（旧滄浪閣エリア）の設計について

委員）本日の委員会では旧滄浪閣エリア内を議論の対象としているが、隣接する旧池田邸エリアの利用も併せて検討すべきである。例えば、旧滄浪閣エリアに設ける駐車場は本邸園全体の来園者の駐車場でもあり、旧池田邸の活用方法、夜間利用等も考え、設計する必要がある。

事務局）ご指摘を踏まえて検討したい。

論点1：メインエントランスの設えについて

委員）本邸園は一定の集客が想定されるため、本邸園に至るまでの、駅や道路の利用負荷を想定する必要がある。特に旧滄浪閣エリア全面の国道1号歩道の拡幅や、正門前での記念撮影等の利用を考えると、そのための溜まり空間は必要と考える。

通用門の位置だが、通常、通用門を閉切としない場合、駅からの動線を考えると、駅側に近い通用門から人が入ってしまうのではないか。

事務局) 歩道の拡幅について、現状、道路側に拡幅することは難しいので、老朽化した植栽柵を撤去し、邸園側にセットバックして境界柵を設ける等により拡幅することを考えている。また、通用門について、隣接する住空間に配慮し、常時人が通行する運用ではなく、繁忙期や管理車両の通行など限定的なものにしたいと考えている。

委員) エントランスの正門のデザインは、門の向こう側に見える建築とセットで検討すべきである。旧ホール棟は現位置で固定とのことだが、旧滄浪閣(旧李王家別邸)の保存改修後のファサードがどのようなになるのか、また、新築エントランス施設の外観・位置が不明のため、デザインの良悪は判断できない。

委員) 正門の位置だが、実際に来園者が見る建物は、旧ホール棟や新築エントランス施設、旧滄浪閣の屋根ということであれば、昔の伊藤邸の位置にこだわる必要はないのかもしれない。

事務局) エントランスの門の位置は、伊藤博文の旧滄浪閣への足取りを想起する意図で設定しているが、具体のデザインについては、新築エントランス施設の設計と合わせて検討を進めていきたい。

委員) 本邸園は湘南の邸園文化を代表する場であることから、そのエントランスは特別な入口、特別な場であるべきと捉えられ、回遊のプロローグの場という本コンセプトは良いと思う。また“明治記念大磯邸園”として整備される以上、明治時代に伊藤博文が別荘を構えたことで大磯が別荘地として発展した経緯を踏まえると、本邸園が特別な場所であることを感じるエントランスとする必要がある。そういった意味で、明治の伊藤邸の冠木門は相応しいイメージと考えるが、周辺の建物との調和が課題である。「史実に基づき、冠木門等を再現する案」を軸に、現状に即してどこまで抽象化するかという判断になると思われる。

冠木門の場合、「滄浪閣」の扁額を掲げることは想定しているのか。門には、「明治記念大磯邸園」と園名を表示するイメージか。

事務局) エントランスのデザインは改めていくつか考えたい。扁額については、本邸園に現物も無いため再現は想定していない。正門周辺に「明治記念大磯邸園」と園名を表示することとなる。

委員) 明治記念大磯邸園の邸宅と庭園について、4つの邸宅が独立していることが良いのか、一体となってみえることが良いか考える必要がある。同年代の類似事例から、大磯の別荘を代表するものをつくるべきだと考える。また、国道1号を歩いてきた際に、古河、伊藤等の個々の邸宅を明確に表現した方が、際立つのではないかと思う。

事務局) 双方必要と考える。来園者に個々の邸宅として認識してもらいたい一方、エリアとしては一体的な邸園だと認識されるような工夫が必要と思われる。ご指摘の点を踏まえて検討したい。

委員) 過去の写真をみると、どの時代も松が印象的である。柵等のデザインもさることながら、全体を統一するものとして松並木の雰囲気をもどれだけ再生できるかが肝要ではないか。

## 論点 2 : 旧滄浪閣の庭園再生について

委員) 邸宅と庭園を行き来する動線や、来園者の邸宅から庭を見る位置によっても意見が異なると思うが、現時点においては、伊藤邸時代の邸宅は既に無いので、花庭の再生範囲はミニマムなもので良いと思う。また、有料・無料区域の区切りがどこになるのかによって庭へのアクセスも変わるので、それも含めて検討が必要。

委員) 梅子夫人の花庭を再現するというのは分かりやすいコンセプトである。展示の要素としても花庭を再現すべきだと思う。一方、駐車場や旧池田邸との動線を考えると芝生広場の利用もあると思うので、梅子夫人の花庭を再現する案からどれくらい抽象化していくのかという考え方かと思う。

委員) 現存する空池と石橋は、撤去する明確な根拠がないのであれば、残すべきである。撤去の判断には、池底の状況等を試掘し、確認する必要がある。

委員) 全体的な使い方を含めてバランスを考えると、梅子夫人の庭を忠実に再現するのではなく、邸宅からの景観等を踏まえたデザインにする等の考え方になると思う。空池等の残すべきものや邸宅から庭への動線は早めに決める必要がある。

委員) 四賢堂跡の土台、縁台の整備とあるが、建物復元しない旨を確認したい。本物が神奈川県立大磯城山公園内に七賢堂としてあることから、位置表示等に留めるべき。また、四賢堂跡に軸線を通し、シンメトリックな空間構成とするのは違和感がある。権威を象徴するような構成であり、別荘の庭として適切なのか疑問がある。

事務局) ご指摘のとおり、四賢堂跡は往時に思いを馳せる場として位置を示すものであり、建物復元は考えていない。また、その位置は、古写真や文献などから割り出した元々の位置になる。そこに洋室棟のテラスからの庭の眺望を考え、両側に花壇を設置する案を考えていたが、庭園の形状についてはご指摘の点を踏まえて検討したい。

以上